

出光佐三

日本を支え故郷を愛した宗像人

2024 11.1(金) 2025 1.26(日)



観覧無料 海の道むなかた館 特別展示室

〒811-3504 福岡県宗像市深田588番地

開館時間 9:00～18:00

休館日 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は翌平日)、
年末年始(12月29日から翌年1月3日)

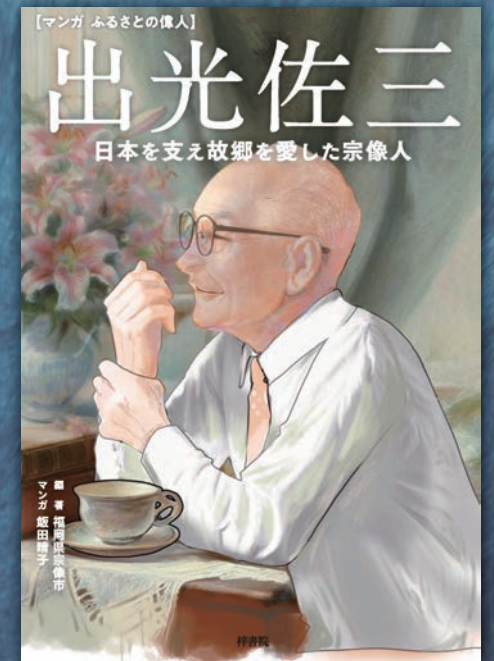
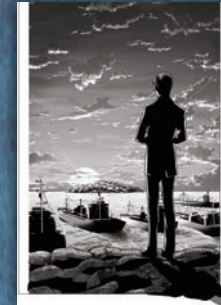
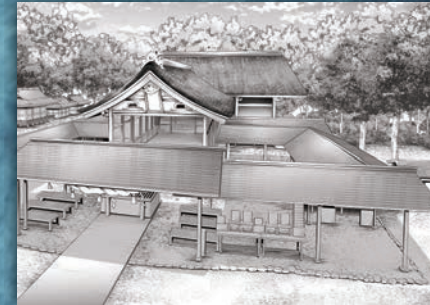
主催 宗像市・宗像市教育委員会

協力 出光興産株式会社、一般社団法人出光興産社史・理念研究所、公益財団法人出光美術館、
公益財団法人出光佐三記念美術館、株式会社JMU アムテック、国立大学法人神戸大学、宗教法人宗像大社(順不同)

問い合わせ先／宗像市教育委員会 世界遺産課 〒811-3504 福岡県宗像市深田 588 TEL：0940-62-2600

『出光佐三』偉人マンガ刊行記念特別展

出光佐三は、出光興産創業者で日本の近・現代を代表する実業家。宗像郡赤間村で生まれ育ち、石油関連事業で傑出した成功をおさめ、故郷宗像へも多大な功績を残しました。特に、宗像神社(現・宗像大社)復興事業や福岡教育大学誘致活動は、世界遺産「『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群」登録や教育のまちといった現在の宗像市の形成に大きな影響を与えました。本展では、出光佐三の生涯と功績を、宗像との関連資料とともに紹介します。



シアタールームにて上映



映像提供 一般社団法人 出光興産社史・理念研究所

関連イベント

01 講演会「出光佐三と宗像」

日時 11月2日(土) 13:00～15:00
会場 海の道むなかた館常設展示室
講師 『出光佐三と宗像』著者 花田勝広氏

02 Colorhythm Risa アートパフォーマンス

日時 11月3日(日) 13:00～14:30
会場 海の道むなかた館常設展示室
出演 Colorhythm Risa



03 出光佐三ゆかりの地を巡るバスツアー

日時 11月17日(日) 9:00～16:00
見学場所 旧赤間宿エリア／出光美術館(門司)ほか

04 藍染めワークショップ

日時 11月23日(土・祝) 10:00～12:00
会場 海の道むなかた館 体験学習室

05 落語で日章丸事件@赤馬館

日時 会期中
上映会場 街道の駅 赤馬館
(宗像市赤間4丁目1-8)



06 出光佐三ゆかりの場所などを巡るスタンプラリー

日時 会期中
配布場所 海の道むなかた館
道の駅むなかた
(観光ステーション「むなたびラボ」)



【アクセス】

車でお越しの方

九州自動車道若宮インターから約20分

古賀インターから約25分

車：海の道むなかた館駐車場 114台(身障者用：4台)

バス専用：6台

公共交通機関でお越しの方

JR 東郷駅バス停より

宗像大社経由・神湊波止場

または光陽台6丁目行きバス(約20分)宗像大社下車

詳細・イベントの
申込はこちらから



<http://searoad.city.munakata.lg.jp/u002/100/20240918143734.html>

出光佐三 生涯年表

佐三のあゆみ

同時代の出来事

明治18年〔1885〕 佐三誕生―幼少期・父母の教え

明治18年（1885） 8月 福岡県宗像郡赤間村（現在の宗像市）に生まれる
父・藤六、母・千代
明治24年（1891） 4月 赤間小学校に入學
明治28年（1895） 4月 東郷高等小学校に入學
明治34年（1901） 4月 福岡商業学校に入學

明治38年〔1905〕 恩師との出会い

明治38年（1905） 4月 神戸・高商に入學
明治42年（1909） 3月 神戸・高商を卒業、丁稚として清井商会に入る

明治44年〔1911〕 支援者との出会いと出光創業

明治44年（1911） 3月 日田重太郎から創業資金を得る
門司市東本町で、出光商會を創業（満26歳）
大正2年（1913） 6月 下関で漁船燃料油の販売に着手

大正3年〔1914〕 出光の海外進出

大正3年（1914） 満州に販路を開拓
大正4年（1915） 漁船燃料油の販売拡大、下関支店開設
大正8年（1919） 南滿州鉄道向けに凍結しない車軸油を開発
大正9年（1920） 朝鮮に販路を開拓
大正11年（1922） 陽テラスで入院、翌年2月退院
台湾に販路を開拓
大正12年（1923） 計量器付供給船を考案、建造し、海上での中身給油を開始
昭和7年（1932） 門司商工会議所会頭に就任（1940）
昭和11年（1936） 華北・華南に販路を拡大
昭和12年（1937） 2月 貴族院議員に選ばれる（1947）
昭和13年（1938） 「日章丸（初代）」竣工
昭和14年（1939） 中華出光興産（株）・満州出光興産（株）設立
昭和15年（1940） 出光興産（株）設立、上海油槽所竣工
昭和17年（1942） 南方陸軍占領地区に民需用石油配給要員を派遣

昭和17年〔1942〕 宗像大社の復興運動

昭和17年（1942） 11月 宗像神社復興期成会結成、会長に就任
昭和19年（1944） 11月 父・藤六死去（91歳）
昭和20年（1945） 3月 母・千代死去（91歳）

昭和20年〔1945〕 終戦から復興へ

昭和20年（1945） 8月 敗戦により国内外の事業すべてを失う
石油配給会社から業界復帰を断られる、農業・漁業などに着手
ラジオ修理販売業に着手、全国に支店開設
旧海軍タンク底油の集積作業を始める
石油業界に復帰（石油配給公団の指定販売業者となる）
昭和22年（1947） 10月 出光商會、出光興産を合併
昭和24年（1949） 7月 徳山製油所の建設を計画、旧海軍燃料廠跡地の払い下げを申請
昭和26年（1951） 12月 石油会社初の自社タンカー「日章丸（二世）」竣工
昭和28年（1953） 4月 日章丸（二世）アバドンに入港、イラン石油を初めて輸入
5月 日章丸（二世）川崎に帰港

昭和29年〔1954〕 沖ノ島の学術調査

昭和29年（1954） 5月 沖ノ島第1次調査開始
昭和32年（1957） 3月 徳山製油所竣工
昭和33年（1958） 8月 沖ノ島第2次調査開始
昭和34年（1959） 3月 門司市名譽市民となる
昭和37年（1962） 2月 ソ連石油を輸入
創業の恩人・日田重太郎死去（87歳）
昭和38年（1963） 8月 出光タンカー（株）設立
世界最大のタンカー「日章丸（三世）」（13万9千重トン）就航
昭和39年（1964） 10月 千葉製油所完成
昭和39年（1964） 11月 石油連盟脱退
昭和39年（1964） 9月 出光石油化学（株）設立
昭和41年（1966） 4月 福岡教育大学統合移転
石油連盟に復帰
出光興産（株）会長となる
出光美術館開館
世界最大のタンカー「出光丸」（20万9千重トン）就航
沖ノ島第3次調査開始
昭和44年（1969） 12月 兵庫製油所完成
昭和45年（1970） 10月 出光日本海石油開発（株）設立（51年、出光石油開発に愛称）
昭和46年（1971） 1月 宗像神社遷宮大祭
昭和47年（1972） 12月 「大嶋丸」就航
昭和47年（1972） 3月 佐三、店主専任となる
出光タイ石油開発（株）設立
昭和48年（1973） 12月 「高宮丸」竣工
中国石油を輸入
昭和49年（1974） 9月 北海製油所完成
「赤間丸」竣工
「宮田丸」竣工
昭和50年（1975） 10月 愛知製油所完成
フランス共和国・文化勲章コマンドール受勲
昭和51年（1976） 7月 佐三、宗像町名誉町民となる
昭和53年（1978） 11月 北海製油共同備蓄（株）設立
昭和54年（1979） 3月 出光地熱開発（株）設立
出光地熱開発（株）設立
昭和55年（1980） 10月 出光豪州ウラン（株）設立
出光南米石油開発（株）設立
LPG船「玄海丸」竣工
「日章丸（四世）」就航
昭和56年（1981） 2月 「日章丸（四世）」就航
昭和56年（1981） 3月 急性心不全のため死去（満95歳）

大日本帝国憲法発布（1889）
日清戦争（1894）
八幡製鐵所操業開始（1901）

日露戦争（1904）

第1次世界大戦勃発（1914）

戦後恐慌（1920）

関東大震災（1923）
世界恐慌（1929） 満州事変（1931）
日中戦争勃発（1937）

第二次世界大戦勃発（1939）

太平洋戦争開戦（1941）

敗戦（1945）

朝鮮戦争（1950）
サンフランシスコ講和条約（1951）

日ソ共同宣言（1956）

ベトナム戦争勃発（1960）

東京オリンピック（1964）

人類初の月面着陸（1969）

大阪万博開幕（1970）

日中共同声明（1972）

第1次石油危機（1973）

第2次石油危機（1979）

